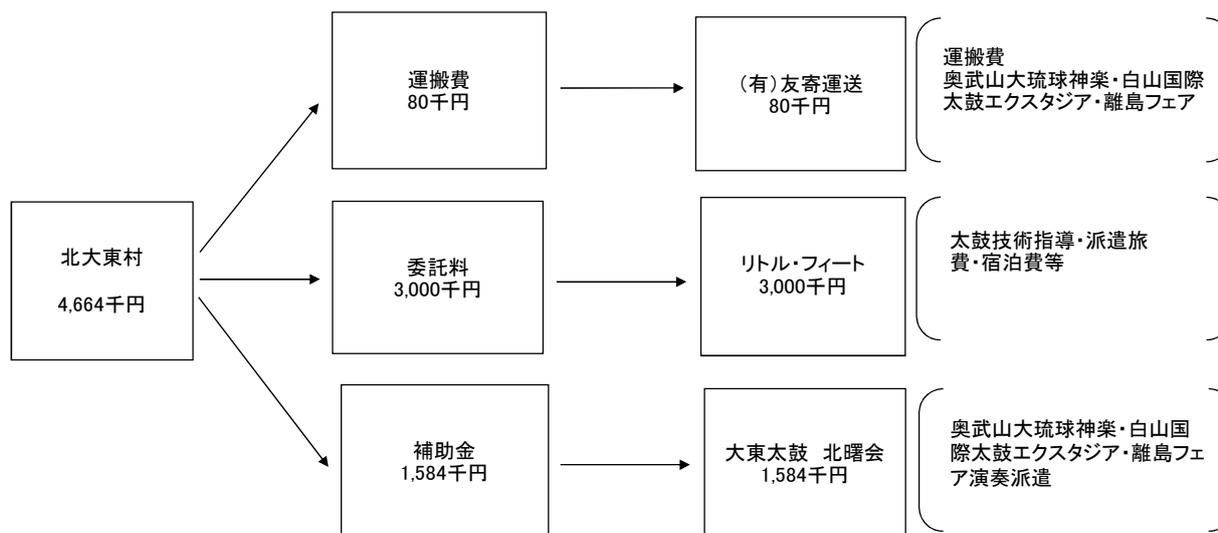


市町村名		北大東村					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	地域の観光文化資源の担い手育成事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-エ	
担当部署名	企画財政課	事業実施 (予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	離島を支える多様な人材の育成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	島の文化資源である『八丈太鼓』の担い手を育成すると共に、県外等での交流発表を開催し、観光誘客を促進する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		5,000	6,000	7,000	7,000	7,000
			1,960	5,484	7,000	7,000	5,503
			▲ 3,040	▲ 516	0	0	▲ 1,497
			—	—	—	—	—
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)		1,960	5,484	7,000	7,000	5,503
			1,960	5,481	5,829	4,848	4,664
			1,568	4,384	4,663	3,878	3,731
		0	0	0	0	0	
		100.0%	99.9%	83.3%	69.3%	84.8%	
予算の状況の説明	・防災・安全景観整備事業への補正流用の為、予算1,497千円を減額した。不用額839千円は文化交流イベント(県外)未実施・備品購入しなかった事によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・大東太鼓担い手育成練習回数:9～10日/年	目標	()	()	(9～10日/年)	(9～10日/年)	
		実績			延べ数:9日	延べ数:9日	
	・演奏備品購入:太鼓(1台)(参考)	目標	()	()	(太鼓(1台)・鉦(1本))	()	
		実績			太鼓(5台)・鉦(2本)		
	・文化交流イベントの開催:5回(県外:1回・県内:4回)	目標	(5回)	(5回)	(5回)	(5回)	
実績		5回	5回	6回	5回		
達成状況説明	島内での太鼓指導を年間三回にわたって行い、子ども達の健全育成・文化継承。更にはUターンした若者への指導を実施し、担い手育成(太鼓後継者)を行った。県外イベント(白山国際太鼓エクスタジア)・村内行事(地域職員歓迎会、大東宮祭:2回)・県内行事(奥武山大琉球神楽・離島フェア(開催期間2日間)の演奏出演)への太鼓交流事業を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	・文化資源の担い手育成数:1人	目標	(0人)	(1人)	(1人)	(1人)	()
		実績			1人	1人	1人
	・文化交流イベントの参加者数:40人(延べ人数)	目標	(0人)	(40人)	(40人)	(40人)	()
		実績			40人	40人	39人
進捗状況説明	イベント参加・交流事業の実施(奥武山大琉球神楽(8名)・白山国際太鼓エクスタジア(16人)・離島フェア演奏(15人))により、他団体との太鼓交流を通しての繋がりや子ども達の健全育成、本島での合同練習指導において文化継承・担い手の育成(1人)がなされた。又、伝統文化・島の魅力を発信した事によって、沖縄本島内・外からの誘客促進と観光振興に大きく貢献した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>今年度事業実施(奥武山大琉球神楽・白山国際太鼓エクスタジア・離島フェア参加)に向け派遣選定基準・人数制限等が問題点・課題となった。(太鼓会員が約45人)①毎年度の会員入替(卒業・入会・退会)を含め、保護者会への活動趣旨の説明と理解を求めなければならない。②会員全員参加となる派遣費や引率人数制限等。今後の練習状況も含めて、遠征派遣や受益者負担、イベント参加の選抜基準・学校側への日程調整を設け、取り組んでいくことを留意した。活動実績に関しては、県外(他団体との交流)イベントは天候不良により、計画中止・未実施となったが、交流実施回数と、遠征人数の目標を達成できた。</p>	<p>伝統文化継承と担い手育成・全会員参加を位置づけ、基本レッスン段階からの基本取り組み・環境等が改善され、コンサート・県外交流事業・イベント派遣事業を実施した。会員卒業生(一般・学生)を含めた活動範囲が広げられ、島の魅力・情報を発信できた。(誘客促進)</p>
今後の取り組み方針		
<p>平成29年度は、他団体・地域との太鼓を通しての文化交流事業や県内・村内イベント等に積極的参加を今後も継続実施し、文化継承と島の魅力・情報発信に努め、観光振興・誘客へ繋げていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,664	4,664	3,731	933	0



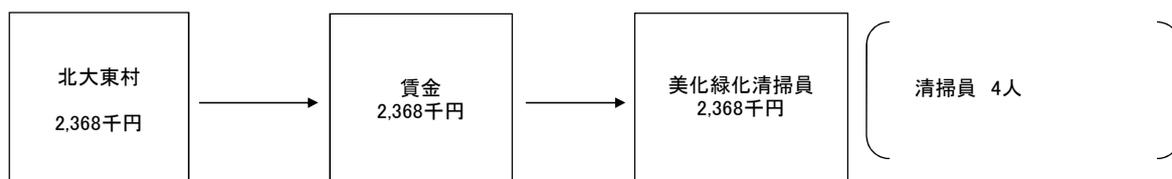
資金の流 れ、費 目 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において、北大東村交付要綱に基づいて支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、県外イベント未実施により、不用額(839千円)が生じたが、事業趣旨から適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○委託費については、太鼓発足当時から指導者である為、委託内容に従事・該当する者がいない為、随意契約による契約を妥当であると考えます。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北大東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	観光アクセス道路美化緑化推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	島の観光に重要なアクセス道路や周回道路等の修景及び美化の重点的な実施を行い、魅力的な観光地づくりを促進する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	27,500	2,500	4,000	5,000	5,000
		(b) 予算現額	24,045	3,016	4,000	4,089	2,497
		(c) 増減額(b-a)	▲ 3,455	516	0	▲ 911	▲ 2,503
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	24,045	3,016	4,000	4,089	2,497
	B. 執行済額		24,045	2,975	3,913	3,163	2,368
	うち交付金充当額		19,236	2,380	3,130	2,530	1,894
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	98.6%	97.8%	77.4%	94.8%
予算の状況の説明		・事業計画のとおり、アクセス道路や周回道路等の修景及び美化を実施したが、対象外事業(県道路管理)へ作業員を配置した為、作業日数が減数となり不用額となる為、防災・安全景観整備事業への補正流用を行い、予算2,503千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・アクセス道路及び周辺道路の美化実施：清掃員2名	目標	(10箇所)	(美化実施：清掃員2名)	(美化実施：清掃員2名)	(美化実施：清掃員2名)	
		実績	10箇所	美化実施：清掃員2名	美化実施：清掃員4名	美化実施：清掃員4名	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	清掃員(常備：4名)を雇用し、アクセス道路や周回道路(10箇所：村内主要道路・村内神社・上陸公園・沖縄県最東端の碑等)に対し、重点的に修景及び美化を実施し、観光客等の受入体制が整備できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	・アクセス道路及び周辺道路の美化実施：2,500m	目標	(0m)	(美化実施：2,500m)	(美化実施：2,500m)	(美化実施：2,500m)	()
		実績		美化実施：2,500m	美化実施：2,500m	美化実施：2,500m	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	観光アクセスに重要な道路や周回道路の修景及び美化を重点的に実施(村内主要道路・村内神社・上陸公園・沖縄県最東端の碑等の2,500m)する事により、観光客等の受入体制の整備・誘客促進・観光振興が図られた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>アクセス道路や周回道路の修景及び美化を重点的に実施してきた中で、対象外事業(県道路管理)への作業員配置等により、作業日数の減数・作業員の確保等が課題となった。</p> <p>①雇用者募集を通知しても応募が無い。 ②他事業との作業日数・期間を調整し、作業員確保・配置の連携を図る。</p>	<p>道路区画整備の追加箇所や前年度実施事業(北大東島内街路灯・観光案内板設置事業)以外の未整備箇所の設置の要望があった。他事業との作業日数・期間を分配調整し、作業員を確保しながら区画周辺・観光地周辺の美化及び修景を継続していく。(次年度も、未設置箇所の照明設置計画・検討)</p>
今後の取り組み方針		
<p>観光アクセスに重要な道路や周回道路の修景及び美化については、平成29年度も引き続き実施し、魅力的な観光地づくりに努める。平成27年度に整備した観光案内板・街路灯照明設置に加えて、未設置箇所の街路灯・区画線追加・未整備箇所については後年度の整備に向け取り組んでいく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,368	2,368	1,894	474	0



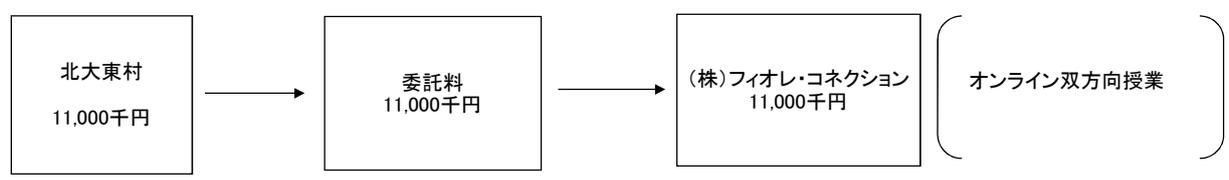
資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p> <p>○予算規模については、未実施日もあり不用額が生じたが、事業趣旨から適正な規模であったと考えている。</p> <p>○嘱託職員については、村内求人・嘱託職員賃金金額と併せて適正に選定しており、妥当であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北大東村					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2	オンライン双方向授業支援モデル事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	遠隔地である離島において、課題となっている教育環境格差を解消する為、都市部と同様の学習環境を提供できるオンライン双方向授業を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	11,000	12,000	12,000	12,000	
		(b)予算現額	11,000	12,000	12,000	11,500	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	▲500	
		(d)繰越額	—	—	—	—	
		A.計(b+d)	11,000	12,000	12,000	11,500	
	B.執行済額		9,342	10,338	11,094	11,000	
	うち交付金充当額		7,473	8,270	8,875	8,799	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		84.9%	86.2%	92.5%	95.7%	
予算の状況の説明		・オンライン授業委託は事業計画どおり実施。休講等に伴う授業日数の減により、不用額500千円が発生した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・オンライン双方向授業講師:10人	目標	(5人)	(4人)	(4人)	(10人)	
		実績	5人	4人	4人	10人	
	・オンライン双方向授業受講生徒:35人	目標	(20人)	(35人)	(35人)	(35人)	
		実績	20人	35人	35人	35人	
達成状況説明	オンライン双方向授業にて現役東大生講師の指導の下、児童・生徒の学力向上が図られた。東大生講師の増数に伴い、各講師・教科ごとの指導・評価・取組等の分野が拡がり、学習方法・姿勢が身に付き教育環境格差の解消に繋がった。又、高校受験も全員合格という実績を得られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	・全国学力状況調査における全国平均との差正答率の差を縮小 ①小学校(4ポイント改善)北大東村59点 全国平均63点	目標	()	(7~10ポイント)	(4ポイント)	(4ポイント)	()
		実績		4~5ポイント	5.4ポイント	7ポイントの差	
	・全国学力状況調査における全国平均との差正答率の差を縮小 ②中学校(6ポイント改善)北大東村46点 全国平均52点	目標	()	()	(6ポイント)	(6ポイント)	()
		実績			5.7ポイント	6ポイント改善	
	進捗状況説明	オンライン双方向授業の実施により、現役東大生の指導を通して教育環境格差の解消が図られ、児童・生徒の学習に対する習慣や姿勢が身に付き、全国平均との学力差を縮めてきている。小学校の目標数値(正答率)には届かなかったが、学力向上が推進されました。又、高校受験も全員合格の実績を得られた。 ※学力向上率 …… 平成29年度全国学力状況調査における沖縄県平均、全国平均正答率との差(小学生、中学生の平均値)					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	事業を実施していく中で、授業の出欠にバラつきのある受講生がいる事など、昨年度の問題点・課題を踏まえて以下の取り組みを行った。 ①部活(大会)・学校行事・村内行事等の参加においては休講日にし、別受講日(予備日)・補習授業等を設けるよう学校側、村側との日程調整・連携を図った。(休講・欠席の減少) ②受講生の授業の理解度に差があり、個々の受講生の理解度に応じたサポートが必要である為、学校側から複式学級解消非常勤講師を学習支援員(サポート)として配置。(村単費で対応) ③検定試験(英検・数検)・高校受験の事前対策授業等の支援を実施。	・受講生の出席継続意識を向上させるよう、保護者への事業制度の趣旨・取組の理解を促す。(授業料免除の経緯説明※毎年度、新受講生への説明の為、必須) ・教育環境格差の解消だけではなく、普段の授業に加え受験対策の取り組みや学習方法の指導を実施する。(講師の招聘・現地対面授業を実施) ・東大生講師による受験対策問題を活用し、定期的、(2ヶ月に1回)に月例試験を実施し、個々の志望校・試験結果に応じて対策を講じている。 ・学習の遅れがちな生徒に対するサポート体制を構築する為、学校側からのサポート補充を実施(複式解消非常勤講師を派遣)した。
今後の取り組み方針		
・欠席する際の連絡が密になり、受講意識の向上・出席率が高まった。 ・学習が遅れがち・理解度に差がある生徒については、評価に応じてクラス・班分けし、授業中に村営塾講師と学校側からの学習支援員(複式解消非常勤講師)でフォローしていけるような体制を継続して構築する。更に継続して東大生講師を現地招聘し、対面授業をとおして、より学ぶ楽しさと授業態度・学習環境の取り組みを図る。 ・早期に事業を開始しており、学校授業と並行して予習・復習・学力向上率のアップを図っている為、平成29年度も継続実施する。 ・受験生(中学生)の早期取組(中学2年生の2学期頃から志望校の選択・レベルに向けて)の受験対策への意識改革(2カ月毎の月例テスト)を図り、全体のレベルの底上げを行っていく。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
11,000	11,000	8,799	2,201	0



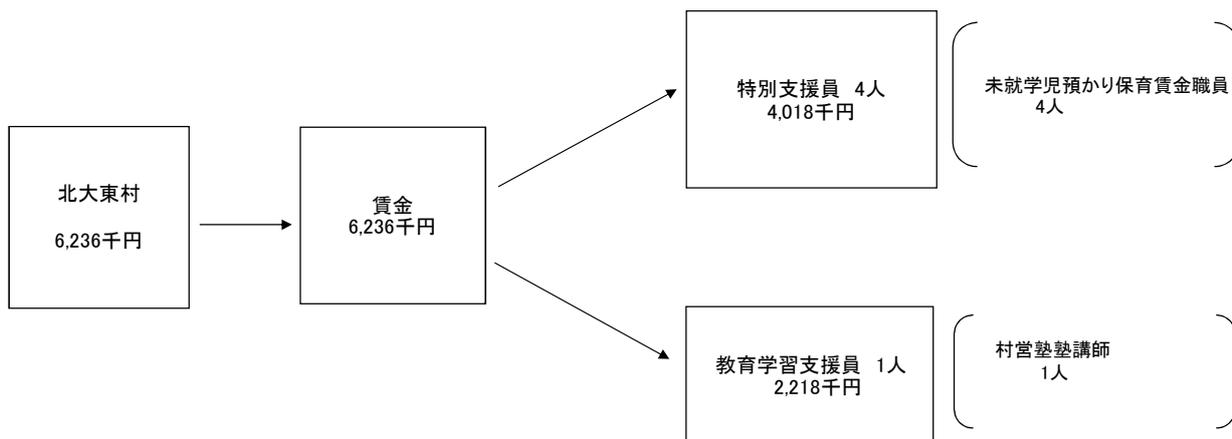
資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、授業休講日等により、不用額(500千円)が生じたが、事業趣旨から適正な予算規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○委託費については、オンライン授業を実施しているのは1社のみとなっており、随意契約にて契約は妥当であると考えます。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北大東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	離島の定住促進に向けた子育て基盤構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	子育て基盤の構築に向け、2歳児を含む未就学園児に対する幼稚園の預かり保育を強化する。また、村営塾を充実させるため、学習支援員を配置する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,000	7,500	7,500	8,000	8,000
		(b) 予算現額	4,592	6,998	7,000	8,000	7,000
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,408	▲ 502	▲ 500	0	▲ 1,000
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計(b+d)		4,592	6,998	7,000	8,000	7,000
	B. 執行済額		4,592	6,897	6,594	6,580	6,236
	うち交付金充当額		3,673	5,517	5,275	5,264	4,988
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	98.6%	94.2%	82.3%	89.1%
予算の状況の説明		・嘱託職員賃金の勤務実績が事業計画を下回った為、不用額764千円が発生した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・幼稚園児の預かり保育の実施のための支援員の配置:2人	目標	(2人)	(2人)	(2人)	(2人)	
		実績	2人	2人	2人	3人	
	・学習支援員の配置:1人	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
		実績	1人	1人	1人	1人	
達成状況説明		平成28年度も継続して預かり支援員(3人(臨時含む))を配置した事により、待機児童の解消目的と2歳児を含む未就学園児に対し、幼稚園の預かり保育が強化された。又、村運営の学習塾へ教育学習支援員(1人)を配置し、児童・生徒を対象に学習支援を実施し、教育環境格差の解消と高校受験全員合格という実績も得られた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	・預かり保育を利用する園児数:10人	目標	(0人)	(10人)	(10人)	(10人)	()
		実績		10人	10人	10人	
	・村営塾受講者数:35人	目標	()	(50人)	(50人)	(35人)	()
		実績		50人	50人	35人	
	進捗状況説明		預かり保育事業実施により、待機児童の軽減と、幼稚園入園への障害等(10人:親離れ・人見知り・学習発達・集団活動)を解消した。 学習支援員の配置事業実施においては、学習塾受講者(35人が全校児童・生徒の約6割)が学習支援(オンライン双方向授業)を受け、高校受験も全員合格という実績が得られた。				

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>預かり支援事業を実施する上で、前年度からの課題・実施を踏まえて、以下の取り組みを行った。</p> <p>①預かり対象年齢の引き下げ要望については、認定子ども園制度の理解を受益者に求めた。</p> <p>②今後の課題として、認定子ども園配置(人員確保や時間・人数制限等)を検討する必要がある。</p> <p>③対象保護者からは、村内行事や親族行事等参加の為、指定日・短時間の預かり対応の自由性と就労機会の創出に大きく寄与している評価も得られた。学習支援事業では、授業理解度・遅れの環境に対応して臨時支援員の配置・サポートが構築された。</p>	<p>認定子ども園配置・幼保一体化(対象年齢を下げ、配置人員の確保をする事)により、入所乳幼児の増数・待機児童解消と保護者の就労時間・就労機会の促進につなげられるよう検討している。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>認定子ども園・幼保一体化設置(預かり対象年齢の引下げや人員確保)の課題を検討し、将来的設置に向けて協議。(平成32年度設置計画)待機児童解消を図る。預ける保護者が安心して就労できる環境を提供していくよう継続して事業を実施する。学習支援事業については、平成29年度実施事業(オンライン双方向授業支援モデル事業)を村営塾・学校側と連携を密にし、受講生徒数の増員と臨時学習支援員の配置・支援協力を求め、全体学力向上を基準としながら、全国学力状況調査の正答率向上も継続実施して図っていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,236	6,236	4,988	1,248	0



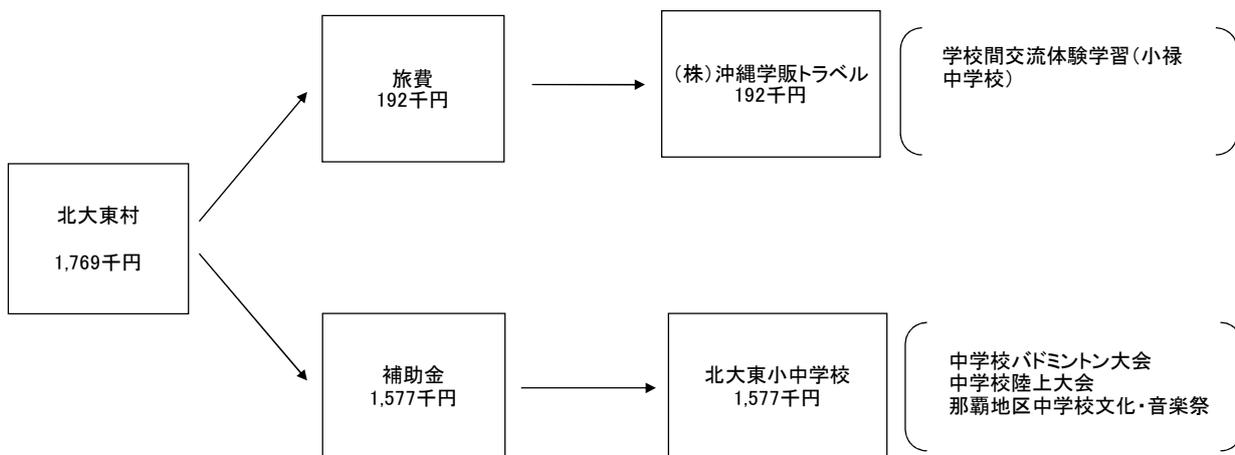
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、預かり未実施・休講日等があり執行残が生じたが、事業趣旨から概ね妥当な予算規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○嘱託職員については、村内求人・嘱託職員金額に併せて適正に選定しており、妥当であった。
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	北大東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	離島の児童の交流促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	離島の不利益を克服し、児童生徒の島外・県外交流を促進するため、スポーツや交流学习における渡航費の支援を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	3,000	2,500	3,500	3,500
		(b) 予算現額	1,584	2,602	2,614	3,044	2,100
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,416	▲ 398	114	▲ 456	▲ 1,400
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	1,584	2,602	2,614	3,044	2,100
	執行状況	B. 執行済額	1,584	2,435	2,403	2,699	1,769
		うち交付金充当額	1,267	1,948	1,922	2,159	1,415
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	93.6%	91.9%	88.7%	84.2%
予算の状況の説明	・スポーツや他校との交流学习派遣費に未実施交流事業があり不用額となる為、防災・安全景観整備事業への補正流用を行い、予算1,400千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
	・渡航助成の実施	目標	(30人)	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	
		実績	30人	30人	実施	実施	
	達成状況説明	目標	()	()	()	()	
		実績					
	学習・文化交流(那覇市・小禄中学校、那覇地区中学校文化・音楽祭)やスポーツ大会派遣(陸上競技・バドミントン競技大会)による本島への移動費助成を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	・スポーツや交流学习等の為に派遣する児童生徒数(延べ数):30人	目標	(0人)	(30人)	(30人)	(30人)	()
		実績		30人	30人	30人	
	進捗状況説明	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	交流促進事業の実施により、他校(那覇市・小禄中学校、那覇地区中学校文化・音楽祭)との文化交流が図られた事やスポーツ大会派遣(陸上競技・バドミントン競技大会)においては、地区大会上位実績・県大会派遣への意欲や技術・精神面での向上に繋がる成果が得られた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>交流促進事業の実施を踏まえて、継続・必要性が求められており、他校との交流事業や競技大会派遣への移動費助成は、該当保護者・教育関係者のみならず、地域の理解の下、実施している。(小規模校・小団体のため、大規模校や競技大会では、萎縮してしまい、十分に実力を発揮できない。そのような事から、普段から他校や各種競技大会への参加・出場で交流を重ね、高校進学による本島での生徒交流の障害解消へと繋げていきたい。)</p> <p>①スポーツ派遣での助成対象(県外)を拡充したが、該当者がいなかった。 ②大会派遣の本島への前々日上覇の滞在費を村単費で対応し、派遣助成を行った。</p>	<p>現在、小・中学校の児童生徒が本島内の他校との交流学习を実施するための移動費助成を行っているが、沖縄本島内での交流学习を実施している学校を地元で招聘し、他校(北部地区・類似校)児童の交流学习を実施した。(村単費事業)</p>
	今後の取り組み方針	
<p>平成29年度も実施継続していくが、今後は、交流学习を計画・実施している類似校との調整を図り、児童・生徒交流事業に取り組んでいき、交流の障害解消へ繋げていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,769	1,769	1,415	354	0



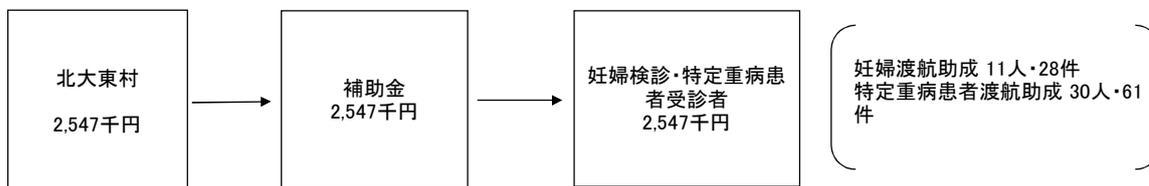
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p> <p>○予算規模については、未実施事業があり執行残が生じたが、事業趣旨から適正な予算規模であったと考えている。</p> <p>○受益者との負担関係については、事前の設定どおり受益者負担を行っており、妥当であると考えます。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北大東村					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	離島特別医療質確保推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部署名	福祉衛生課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	離島の不利益を克服し、妊婦・特定重病患者等の健康を守るため、妊婦検診や島内で対応できない医療サービスを受ける際の渡航費の支援を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,000	500	1,000	3,000	3,000
		(b) 予算現額	179	1,400	1,904	3,456	3,124
		(c) 増減額(b-a)	▲ 3,821	900	904	456	124
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
		A. 計(b+d)	179	1,400	1,904	3,456	3,124
	B. 執行済額		179	1,046	1,831	3,136	2,547
	うち交付金充当額		143	836	1,465	2,508	2,037
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	74.7%	96.2%	90.7%	81.5%
予算の状況の説明		・補助件数が当初計画していた件数を上回った為、補助金を事業間流用補正にて増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・妊婦検診助成の実施	目標	(5回/1人)	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	
		実績	3.4回/1人	4回/1人	実施	実施	
	・特定重病患者の検診助成の実施	目標	()	()	(助成の実施)	(助成の実施)	
		実績			実施	実施	
達成状況説明	島内で受診対応出来ない、妊婦検診(28回/11人)・特定重病患者検診(61回/30人)医療サービスを受ける際の沖縄本島への渡航移動費助成を行った。事業制度の周知が図られ妊婦助成・特定重病患者対象者への活動目標(検診渡航)が実施された。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	・妊婦検診助成回数(延べ数):50回 H27年度:5回/1人	目標	(0回)	(30回(5回)/1人)	(50回(6回)/1人)	(50回(5回)/1人)	()
		実績		60回(4回/1人)	61回(4.7回/1人)	28回(2.5回/1人)	
	・特定重病患者(延べ数):45回	目標	()	()	(16回(4回)/1人)	(45回(4回)/1人)	()
		実績			35回(2.9回/1人)	61回(2.0回/1人)	
	進捗状況説明	妊婦助成(28回/11人)・特定重病患者(61回/30人)の方が、助成申請・支援を受けた。、妊婦助成(継続)・特定重病患者(継続)実施した取組により、事業の認知・周知性が高まり事業制度が活用された。事業制度の周知が図られ助成妊婦・特定重病患者対象者に活用されたが、妊婦の減少により、検診渡航回数が少なく成果目標の1人平均利用回数を下回った。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>妊婦・特定重病患者への助成事業を推進していく中で、昨年度からの問題点・課題を踏まえて以下の取り組みを行った。</p> <p>①継続・必要性のある事業で、受益者申請の手続き簡素化によって、負担軽減を図った。</p> <p>②税・公共料金の完納推進・実施。</p> <p>③助成対象基準日(2泊3日)を超過した滞在費を村単費にて助成実施した。</p> <p>④申請確認の徹底や申請者の手続きによる受益者負担軽減に努めた。</p>	<p>妊婦・特定重病患者受診の助成制度の活用・促進を促していく為、税・公共料金等の納付強化に努め、渡航助成費の対象外経費(滞在費)を村単費にて助成し、改善を図った。申請事務手続きの簡素化や出産祝い金の助成等(村単費)を実施し、受益者負担軽減への取り組みと不利益条件格差の解消・少子化問題解消・定住化を図った。施設の基盤強化(専門医療機器の導入)は将来的に可能か検討)</p>
今後の取り組み方針		
<p>平成27年度からは特定重病患者の島外医療サービスの渡航費助成と合わせての実施しており、今後も継続・制度の周知を徹底しながら、対象外経費の村単費事業対応や出産祝い金助成等を実施し、受益者負担軽減を図っていく。制度事業を活用していく中で、村税・公共料金等の納付強化の向上が図られており、継続して少子化問題解消・特定重病患者の早期発見・高齢者定住化へ繋げていく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,547	2,547	2,037	510	0



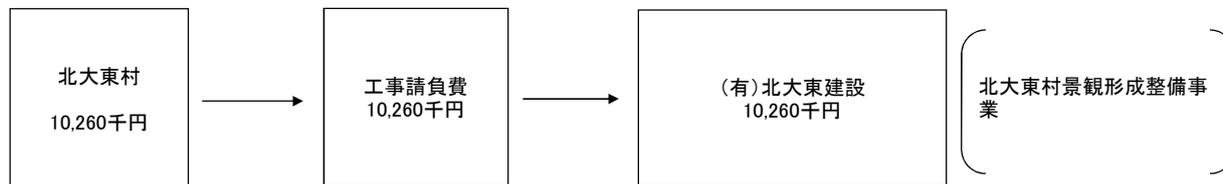
資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受診証明書・搭乗確認書等にて選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模については、事業内容から概ね妥当な予算規模であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○受益者との負担関係については、事前の設定どおり受益者負担を行っており、妥当であると考えます。

市町村名		北大東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-①	北大東村景観形成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	北大東村特有の地域性にあった景観づくりに向け、海岸道路沿いの周辺環境に配慮した景観整備を行う。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,250	10,250	27,000			
		(b) 予算現額	14,250	10,250	10,260			
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 16,740			
		(d) 繰越額	—	—	—			
		A. 計(b+d)	14,250	10,250	10,260			
	B. 執行済額		8,964	9,571	10,260			
	うち交付金充当額		7,171	7,656	8,208			
	次年度繰越額		0	0	0			
	執行率(%) (B/A)		62.9%	93.4%	100.0%			
予算の状況の説明		・事業計画のとおり、海岸道路沿いの景観形成整備を実施した。入札残により、コミュニティ施設周辺整備事業への流用補正を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	・村一周海岸道路の植樹環境整備 監理・工事の実施：900m		目標	(50m)	(400m)	(900m)	()	
			実績	50m	400m	900m		
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明		マリンレジャー施設や観光ガイド施設等の観光基盤整備を進める中、景観性が乏しい村一周道路の海岸沿いを地域性にあった植樹・環境整備によって、観光誘致へ繋げるよう西港から北港向けへ景観形成の環境整備を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	・村一周海岸道路の植樹環境整備 測量・設計の完了：9,000m(参考)		目標	(-)	(9,000m)	()	()	()
			実績		9,000m			
	・村一周海岸道路の植樹環境整備 監理・工事の完了：900m(進捗率38.9%(全長9,000m))		目標	(-)	(-)	(400m)	(900m)	()
			実績			400m	900m	
	・村一周海岸道路の植樹環境整備 雑木伐採等の完了：900m(進捗率38.9%(全長9,000m))		目標	(-)	(50m)	(400m)	(900m)	()
実績				50m	400m	900m		
進捗状況説明		平成30年度の漁港完成に伴い、新規事業・雇用の創出や他方からの漁業利用者等が期待できる。又、マリンレジャー施設や観光ガイド施設等の観光基盤整備が進んでいる。そこで、景観性が乏しい村一周道路の海岸沿いを地域性にあった植樹・環境整備によって観光誘致へ向け、西港から北港向け(900m)へ景観形成の環境整備を行った。次年度以降も継続実施する。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	景観形成整備の植樹箇所選定・実施箇所が課題となった。 ①岩礁箇所が多く、掘削作業の低効率化・実施予定箇所の変更等不測の状況が発生した。(岩礁・風景の環境配慮・潮害影響の少ない箇所) ②全長(9,000m)を6～7年に分けて整備していく。 ③植樹後の管理経費を村単費にて実施。	平成26年度から景観形成整備(全長9,000mを6～7年度整備)を実施。村特有の岩礁や風景・周辺環境に配慮し、地域性に適合する植樹・景観整備を行っている。北港～空港迄(村道4-4号線道路改良事業・平成28年度より事業開始)の路線開通に向け、景観整備箇所を追加事業で検討している。観光客誘致・増加(1,000～1,500増)と観光産業振興(空港～各漁港への島一周道路開通)が図れるよう取り組んでいく。
今後の取り組み方針		
平成26年度から、全長9,000mを6～7年度整備に向けて、景観形成整備を実施。村特有の岩礁や風景を活かし、地域性に適合した植樹・景観形成整備を継続実施し、北港～空港迄(村道4-4号線道路改良事業(全長:3,150m)・平成28年度より事業開始)の路線開通に向け、景観整備箇所を拡張できるよう取り組んでいき、観光客等の受入体制と誘客・観光産業振興に繋げる。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,260	10,260	8,208	2,052	0



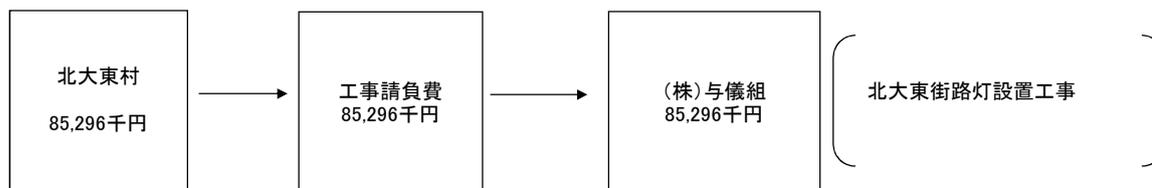
資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○予算規模については、入札残を他事業へ補正流用を行ったが、概ね妥当な予算規模であったと考えている。 ○委託業者は指名入札方式により適正に選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北大東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	北大東村防災・安全景観整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成27～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	島を訪れる観光客や車両運転手・歩道歩行者等から街路灯・歩道照明の不足が指摘されており、防災・防犯・安全や景観整備の観点から街路灯・歩道照明の設置整備を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	80,000	80,000			
		(b) 予算現額	80,911	85,350			
		(c) 増減額(b-a)	911	5,350			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計(b+d)	80,911	85,350			
	執行状況	B. 執行済額	80,910	85,296			
		うち交付金充当額	64,728	68,236			
		次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.9%				
予算の状況の説明	・事業計画どおり島内主要道路の街路灯照明設置事業を実施した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	・島内主要道路の街灯照明設置:街路灯:54箇所設計監理・工事の実施	目標	(104箇所)	(54箇所)	()	()	
		実績	41個	44個			
	・島内主要歩道の街灯照明設置:歩道照明:650個設計監理・工事の実施	目標	(1,290個)	(650個)	()	()	
		実績	0個	0個			
達成状況説明	三箇所の字で形成されている本村は、密接集落が無い為、集落以外の周辺は、街路灯・歩道照明が設置されていない。観光客や車両運転手・歩行者等からの設置要望や不足が指摘されていた。防災・安全や景観整備の観点から街路灯設置の整備を行った。 (※歩道照明設置箇所が、県道部分も含んでおり、設置許可の手続き等の遅れ(回答得られず)により、歩道照明の設置が実施できなかった。)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(23年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
	・島内主要道路の街路灯・歩道照明設置の完了:26,000m	目標	()	(26,000m)	(26,000m)	()	()
		実績		26,000m	26,000m		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	三箇所の字で形成されている本村は、密接集落が無い為、集落以外の周辺は、街路灯・歩道照明が設置されていない。観光客や車両運転手・歩行者等からの設置要望や不足が指摘されていた。防災・安全や景観整備の観点から街路灯照明設置の整備によって、車両運転手・歩行者等が夜間も安心・安全に利用が図られた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	街路灯・歩道照明を設置していく中で、街路灯・歩道照明の不足や安全性が指摘されていた。断線による停電の改善や観光客の受入体制の景観整備・車両運転手・歩行者等の安全・防犯・防災の観点から当該施設設置の要望があった。①設置計画の街路灯と本設置街路灯との設置構造・耐久性・単価差を見直し、前年度同様の機種設置を実施。 ②主要・優先箇所からの設置。(畑・敷地に被る箇所は、設置取り下げの箇所もあった。) ③歩道照明設置(県道)の許可遅れによる進捗低下。	既存電柱設置(電力との設置許可・調整、道路交通規制等)の太陽光照明と比較しながら、維持管理・環境面を考慮し、LED照明を設置する事で、防災・安全・生活環境を整え、充実した安心安全の確保と住みよい環境・地域づくりが図られている。
	今後の取り組み方針	
台風災害時等の配電基盤破損や断線による停電時の支障・復旧が改善でき、環境面や車両運転手・歩行者等の防犯・安心の地域づくりが構築された。平成29年度も未整備の設置箇所の整備に向け、優先箇所の設置・追加設置箇所の要望、製品構造・耐久性等も協議しながら、充実した環境・地域づくりの位置づけに取り組みたい。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
85,296	85,296	68,236	17,060	0



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○予算規模については、製品品質・耐久性等を勘案して事業内容趣旨から妥当な予算規模であったと考えている。 ○委託業者・工事請負業者は指名入札方式により適正に選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北大東村
------	------

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-①	離島食品・日用品輸送等支援実証事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成28～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				交通・生活コストの低減
				Ⅲ-9

事業内容
 離島における割高な生活コストの低減を図るため、沖縄本島から北大東島へ輸送される食品や衣類、履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援を実施する。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	(a) 当初予算額	8,250				
	(b) 予算現額	8,250				
	(c) 増減額(b-a)	0				
	(d) 繰越額	—				
	A. 計(b+d)	8,250				
	B. 執行済額	7,334				
	うち交付金充当額	5,866				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	88.9%				
	予算の状況の説明	・事業計画どおり離島食品・日用品輸送等支援実証事業を実施した。				

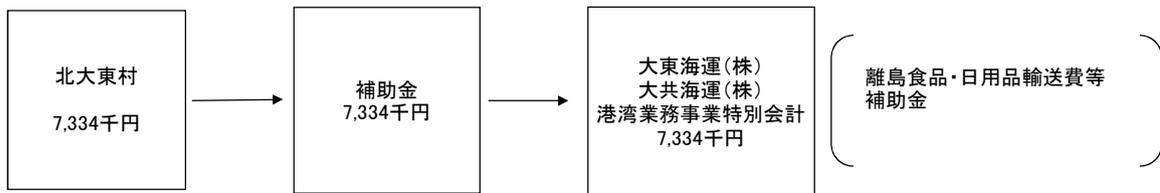
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
・食品、衣類、履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援	目標	(支援の実施)	()	()	()
	実績	実施			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	沖縄県離島地域は遠隔性、散在性、狭小性等の不利益条件から輸送コスト・高額物価や慢性的な人口流出・減少等により、地域活力の低下が懸念されている。そこで、沖縄本島から北大東島へ輸送される割高な生活コストの低減を図る為、食品や衣類・履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援を実施した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(23年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
		・沖縄本島と離島の生活必需品等の価格差(那覇市を100とした場合の指数)の縮小 (参考)H28指標: 124	()	(価格差の縮小)	()	()
			価格差の縮小			
	目標	()	()	()	()	()
進捗状況説明	離島地域の現状(遠隔性、散在性、狭小性等の不利益条件)を踏まえ、交通・生活コストの低減、定住化を図るため、離島食品・日用品等の輸送経費及び作業経費の支援を行った。本島・離島間の輸送経費が軽減されるほか、小規模離島の小売店の仕入価格の負担軽減に繋がり、沖縄本島と離島の価格差の縮小・離島住民の生活コスト・負担低減に繋がった。那覇市を100とした場合の指標を(H28指標: 143程度からH28指標: 124と19ポイントの価格差縮小が実証できた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>離島食品・日用品輸送費等支援をしていく上で、業務(スキーム)の確認等が課題となった。</p> <p>①過年度までは、実証実験事業により、全額県補助にて措置していたが、対象離島が増数になった為、村負担分(1/2)が発生。</p> <p>②事務スキーム(申請・請求等)の認識・確認等に日数を要した。</p> <p>③支援補助請求の迅速化。</p> <p>④各小売店の商品低減化・提供の推進。</p> <p>⑤地域住民への制度活用アンケートの実施。</p>	<p>大東海運・大共海運・港湾業務課の事務共有・連携を密にし、県事業課(地域離島課)との事務書類等の整合性を図り、支援補助請求の迅速化が強化されてきた。月毎の支援補助請求に日数を要するので、年度末(3月)の対象日数が制限される中、対象請求基準日を設ける(各社共有日)必要があった。基準日対象外運航の支援補助については、村単費にて支援補助する事で留意。各小売店・住民等に生活コスト低減実証・実感アンケート等を実施し、本島・離島間の格差縮小が段階的に負担軽減に繋がっているのを認識できた。離島への車両輸送経費についても日用性等の面から支援対象必要項目に検討するよう求められた。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>離島食品・日用品輸送費等支援事業実施された事で、各小売店・住民等からも不利益条件による価格差縮小・生活コスト低減等、実感・効果が実証されてきている。必要性・要望が高い事業なので、今後も継続支援し、定期的な実証アンケートの実施や各小売店との商品販売調整等を図りながら、不利益条件の解消・商品価格差の縮小・定住化の向上位置づけに取り組んでいく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,334	7,334	5,866	1,468	0



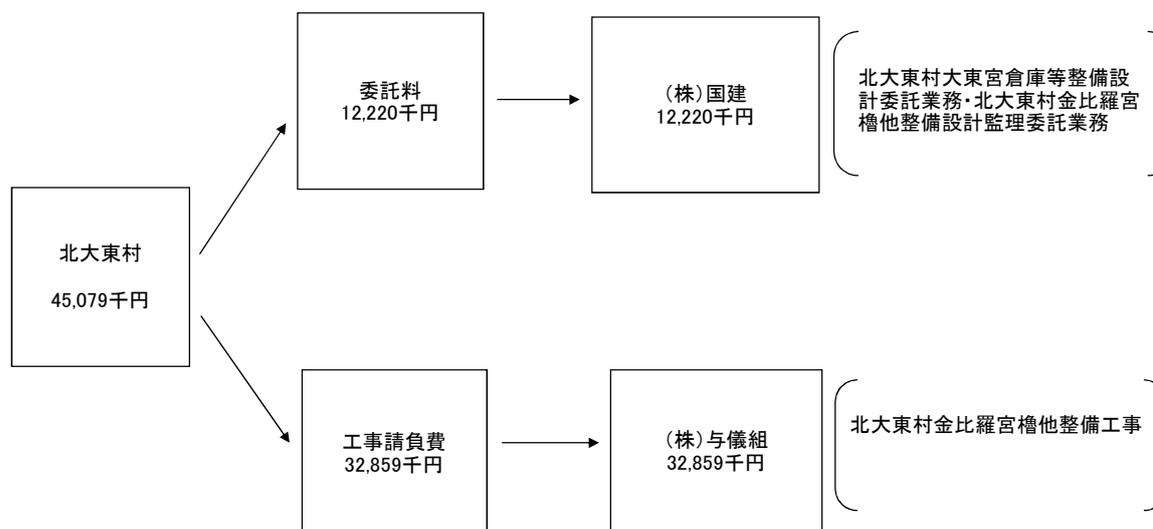
資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、期間制限により執行残(916千円)が発生したが、事業趣旨から適正な予算規模であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係については、事前の設定どおり受益者負担を行っており、妥当であると考えます。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○支援費負担業者については、南北大東船運航会社を選定しており、妥当であった。

市町村名	北大東村						
平成28年度沖繩振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	北大東村コミュニティ施設周辺整備事業			沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-エ	
担当部署名	経済課	事業実施(予定)年度	平成27～30年度		沖繩振興基本方針該当箇所	過疎・辺地地域の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	北大東村内で毎年行われる祭り行事において、県内・県外から、多くの関係者や観光客が訪れている。水産・観光業の発展を図る近隣場所として、歴史継承や文化的景観の保全・活用の為、コミュニティ施設周辺の整備を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		85,000	—	30,000		
			85,000	—	45,300		
			0	—	15,300		
			—	55,011	—		
			85,000	55,011	45,300		
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)		29,989	54,705	45,079		
			23,991	43,763	36,063		
			55,011	0	0		
			35.3%	99.4%	99.5%		
予算の状況の説明	・事業計画どおり金比羅宮備品格納庫・櫓の整備事業・大東宮周辺整備設計を実施した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	・金比羅宮備品格納庫(25㎡)・櫓の整備 ・大東宮周辺整備設計の実施	目標	(設計監理・工事の実施)	(設計監理・工事の実施)	()	()	
		実績	設計監理・工事の実施	設計監理・工事の実施			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	本村に在する三箇所の神社は観光拠点となっており、毎年行われる行事への参加・観覧に観光客が訪れる。レンタカー・観光バス利用による観光の形態が増加しており、平成27年度に周辺駐車場や公衆トイレ・行事観覧席等の整備を行い、平成28年度は備品格納庫・櫓の整備を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(23年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
	コミュニティ施設周辺の公衆トイレ、駐車場、行事観覧席の整備完了(参考)	目標	()	(設計監理・工事の完了)		()	()
		実績		設計監理・工事の完了			
	・金比羅宮備品格納庫(25㎡)・櫓の整備完了 ・大東宮周辺整備設計の完了	目標	()	()	(設計監理・工事の完了)	()	()
		実績			設計監理・工事の完了		
	進捗状況説明	行事への参加・観覧に訪れる観光客への利用状況で周辺駐車場・公衆トイレ・行事観覧席、雨天決行時による櫓等の施設整備が早急に求められてきた。平成30年度開港予定の漁港や航空機材の大型化により、更なる観光客の増数が見込まれ、観光誘致・産業振興へ繋げた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	金比羅宮備品格納・櫓の整備、大東宮周辺整備設計をしていく中で、境内の限られた敷地への配置・設置の調整が課題となった。 ①備品格納庫・櫓スペースの確保。 ②大東宮周辺整備設計による境内敷地内の配置検討・確保。 ③整備後管理の位置づけ。	備品格納庫・櫓を整備したことによって、テント・椅子等の備品管理の徹底化(北大東村祭典奉賛会にて管理)・櫓を目印に金比羅宮境内への参拝・観光誘導の効率化が図られた。雨天時においても行事開催が可能になり、行事参加・集客の向上にも繋がっている。大東宮周辺整備も同様に設置箇所の検討や整備箇所の要望もあった。
今後の取り組み方針		
平成27年度に周辺駐車場・公衆トイレ・観覧席等の整備が行われ、平成28年度は備品格納庫・櫓の整備が行われた。今後は近隣の観光施設(燐鉱石貯蔵庫跡地周辺)・水産業関連施設等(りんこう館・陸上養殖施設)と絡めて観光・水産業振興、地域住民と観光客との交流促進へ繋げていけるよう取り組んでいく。平成29年度は、大東宮周辺整備・秋葉宮神社の周辺整備設計にも取り組んでいく。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
45,079	45,079	36,063	9,016	0



資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○予算規模については、事業趣旨から適正な予算規模であったと考えている。 ○委託業者・工事請負業者は指名入札方式により適正に選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	